

Regular Meeting Report

10月例会報告書



政治参加が当たり前の社会へ

自分から変わる、自分を変える みんなの未来、次世代の未来

市民が政治に関心を持ち、政策を見据え考えて投票する。そんな社会を目指し、政治行政政策室が主管となって開催された東京青年会議所10月例会。子育てに忙しい世代や、政治にあまり関心のない人にも少しでも政治を身近に感じてもらうため、ハロウィンの要素を取り入れ、楽しさ、親しみやすさをもたれる工夫を凝らした設えが印象的でした。政治の硬いイメージを脱し、一般の人を巻き込んで、政治の本質や重要性を発信する機会となりました。

2018年10月18日、上野公園内、水上音楽堂場外で10月例会が実施されました。人気イベントであるハロウィンをテーマに、仮装した芸人にショータイムや仮装コンテストなど、親子連れにも楽しめる要素を盛り込み、タレントのフィフティさんをはじめ、国会議員、都議会議員、区議会議員の皆さんの参加を得て、気軽に楽しみながら、政治の問題点の訴求や、未来を考える機会を提供しました。



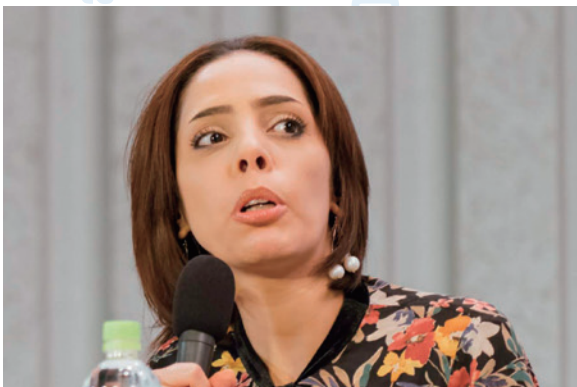
SENSE OF MISSION

市民目線のパネルディスカッションで政治家と候補者をつなぐ機会を提供

今回の例会では、東京JCとして先を見据えた時に、政治参画を促すべき対象をまず考え、それを子育て世代に設定。JCメンバーも当てはまり、次の日本を担う世代であること、次の世代を育てる親であることがキーとなりました。

事前に、子育て世代や若者との意見交換により、市民目線での疑問を洗い出し、政治家にも申したいことを取り入れたパネルディスカッションを企画。パネリストとして子育て世代の議員の皆さん、コーディネーターには東京大学在学中より若者と政治をつなぐ活動を続ける原田謙介さんに参加していただきました。

さらに、司会兼コメンテーターにフィフィさんを起用。市民目線と国際的な視点での切り口で今の日本を語ってもらえたことで、政治を考え、参加する重要性を、集まった人々に感じてもらえたと思います。



政治に対する硬いイメージを払拭し暮らしの中に政治があることを訴求

平日の夕方という、特に子育て世代には忙しい時間帯に、ハロウィンやお祭りをテーマに市民の人々が参加しやすい場を設けました。人気アニメの仮装をした芸人のショータイム、仮装コンテスト、お菓子配りなどを行い、託児所も完備。子ども祭りブースではスタンプラリーも実施して好評を博しました。

政治とは対極のコーナーを用意することで、政治に興味をもつきっかけを提供する。ひとりひとりが有権者であることを意識してもらおう。そんな目標を叶えるひとときとなったことを感じます。



課題と成果の両方が明確になりさらなる一歩への道筋を築く

今後の課題として、市民の人々へのアピールや事前告知の強化などが挙げられます。しかし同時に、市民の代表として政治に直接携わるパネリストの参加を得て、東京JCだからこそできること、例会だからこそできることをしっかり実行できた、実りある一歩となる例会でした。

それぞれ考えの違う人々の意識を変えること、JC活動を0から1へ引き上げるのは難しいことですが、0.1でも、0.5でも引き上げるための積み重ねをしていくべきであることを再認識する機会ともなりました。

